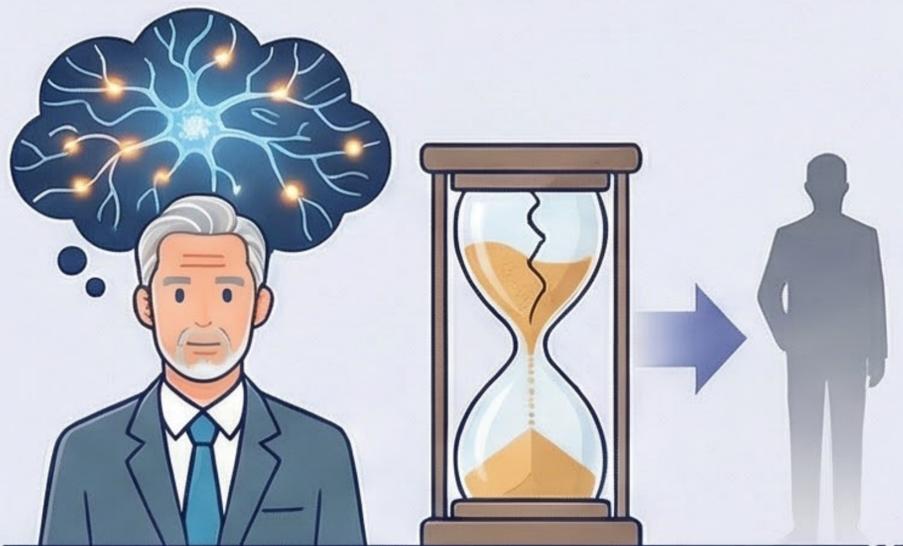


属人化から組織の資産へ：Tokkyo.Aiが実現する「知財判断」の可視化

多くの企業で知財業知はベテランの「暗黙知」に依存しており、担当者の退職によるノウハウ喪失が深刻な経営リスクとなっています。Tokkyo.Aiの新機能は、AIエージェントが判断プロセスをデータ化することで、経験依存型の業務を「組織として再現可能な基盤」へと転換します。

解決すべき課題：属人化という経営リスク



ベテランの「暗黙知」の喪失

どの出願を断念すべきか等の高度な判断が、退職や異動と共に組織から失われている。



AX時代の「知財インフレ」への対応

発明底稿の爆発的な増加に対し、個人の経験に頼る体制では判断スピードが追いつかない。

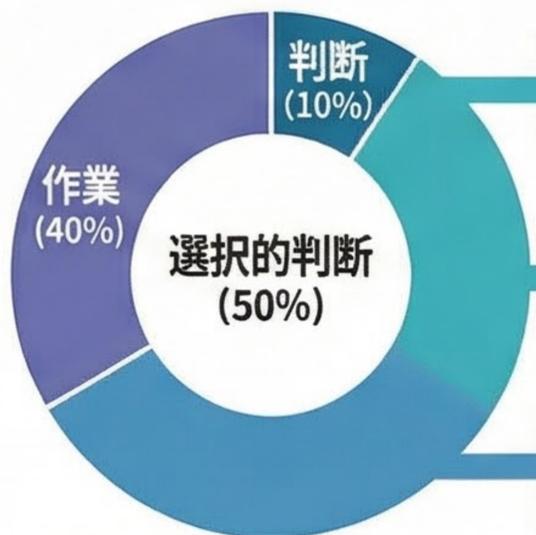


「作業」ではなく「判断」のブラックボックス化

検索や評価の「やり方」が言語化されず、特定個人に依存する構造的リスクが生じている。



熟練者の業務内容



データール化

人の判断をAIが支援

ナレッジ化・標準化

デジタル化・自動化

新基盤：AIによる思考プロセスのデータ化



思考プロセスの可視化と構造化

ベテランの検索ワードや評価視点をデータ化し、「なぜその判断に至ったか」を記録する。



若手への効率的な技術継承

若手担当者がAIを通じてベテランの思考を体験することで、学習スピードを飛躍的に高める。



「再現可能型」組織への転換

業務をAIで形式知化し、個人の経験に依存しない持続的な競争力を構築する。